

消毒の効果を最大限発揮するためのポイント

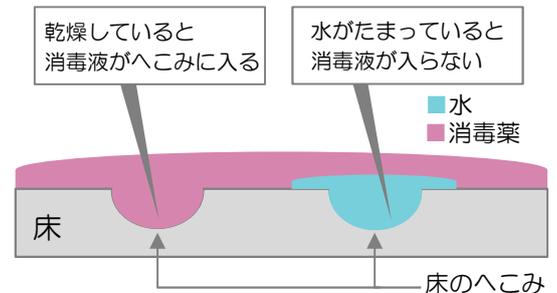


家畜の健康を守るため、日々の消毒は欠かせません。消毒の効果を最大限発揮するためのポイントをもう一度確認してみましょう！（参考文献：養牛の友 2022年5月号）

洗浄（水洗）と乾燥の重要性

【洗浄（水洗）】畜舎内の有機物（糞尿、血液、飼料残渣、ほこりなど）は、消毒の効果を低下させます。有機物を除去した後の水洗後は、洗い残し（壁の溝や配管の天井側など）がないか確認してみましょう。水洗のみで落とすきれいな汚れについては、**油脂・脂肪などの有機物の除去にすぐれた界面活性剤入り洗浄剤を使用する**方法もあります。

【乾燥】多くの病原体は乾燥に弱く、大腸菌などは乾燥だけで死滅するといわれています。さらに、乾燥した状態では床や壁などの細かいへこみにも消毒薬を行きわたらせることができます（右図）。水分が残っていると消毒薬が規定の濃度より薄くなってしまいますので、水洗後はしっかりと乾燥させましょう。



有機物の除去 ▶ 水洗 ▶ 乾燥 ▶ 消毒 ▶ 乾燥

の順番が大切です！



消毒薬の種類

誤った使用方法では効果がなくなってしまうため、それぞれの特徴を理解することが重要です。**消毒薬の種類や用途により休薬期間が発生するおそれがある**ので、使用の際は管理獣医師などにご相談ください。

逆性石鹼

金属・ゴム・プラスチックに使用できる。温度やpHが高くなるほど消毒効果も高くなる。**冬季には消石灰を少量加えて効果の低下を防ぐ。**

塩素系

金属腐食性が強い。**石灰の混入で効力が低下する。日光で分解される**ため、屋外の踏込消毒槽に使用した際はこまめに交換する。

コード系

金属腐食性があり、**石灰の混入で効力が低下する**。出荷制限期間がないため、家畜を飼養している場所でも使用可能。

グルタラール製剤

有機物の影響を受けにくい。金属への腐食性が少ないので畜舎や車両の消毒に適している。**粘膜への刺激が強いため畜体への噴霧は不可。**

オルソ剤

鶏コクシジウムのオーシストを殺滅する。有機物が存在しても効力はあまり低下しない。**ウイルスへの消毒効果は低い。**

石灰

石灰乳を畜舎に塗布することで、消毒に加え病原体を封じ込めることができる。ドロマイト石灰は使用時の安全性が高く、付着性も良い。

消毒薬の希釈

消毒効果を発揮するためには、取扱説明書に記載してある希釈倍率を守ることが大切です。以下の表を参考に、作りたい希釈倍率になるための消毒薬の量と水の量を確認しましょう。

消毒薬の適切な **希釈倍率(倍)** を作成するための消毒薬と水の量

水の量(L)	10	100	200	300	500
消毒薬の量(mL)					
100	100倍	1000倍	2000倍	3000倍	5000倍
200	50倍	500倍	1000倍	1500倍	2500倍
500	20倍	200倍	400倍	600倍	1000倍
1000(1L)	10倍	100倍	200倍	300倍	500倍



定期報告の提出をお願いします



【家畜飼養者の皆様へ】

家畜伝染病予防法に基づき、**毎年、2月1日時点の家畜の飼養頭数及び飼養状況を報告**していただいています（口蹄疫や豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防、迅速な初動等の家畜防疫体制の強化を図るため、平成23年度から**報告が義務化**されました）。

記入後、お住まいの市町の畜産担当に提出をお願いします。

【対象家畜】

牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚（ミニブタ含む）、いのしし、鶏、あひる（あいがも含む）、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥

市町から連絡のあった締め切りまでに、ご提出をお願いします！



家畜伝染病予防法に基づく定期報告書 及び熊本県畜産統計調査

調査時点：令和5年(2023年)2月1日

令和5年(2023年)2月1日時点の数値と、飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況を御記入いただき、令和5年(2023年)2月10日までに
お住まいの市町村へ提出をお願いします。

一生産者の皆様へ

○家畜伝染病予防法に基づく定期報告書

家畜の飼養者には、平成23年度(2011年度)から家畜伝染病予防法第12条の4第1項の規定に基づき、飼養状況等の報告が義務付けられています。
家畜伝染病の発生の予防、早期の通報、迅速な初動等に重点を置いて家畜防疫体制の強化を図るものですので、本調査票に該当する項目には必ず御記入くださいますようお願いいたします。

対象の家畜

牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚（ミニブタを含む）、いのしし、鶏、あひる（あいがもを含む）、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥

*愛玩や産先飼育も含みます。

○熊本県畜産統計

一方、県では、本県の畜産動向を把握し、各種施策に反映するとともに、基礎資料として活用することを目的に、毎年熊本県畜産統計調査を実施しております。そこで、上記の定期報告と熊本県畜産統計調査との重複を避けるため、平成25年(2013年)から調査を一元化することとしましたので、併せて御協力をお願いします。

なお、この調査で得られる調査結果をもとに統計を作成いたします。御記入いただいた個人情報につきましては、紛失や漏洩が発生しないよう努めます。

近隣諸国における越境性家畜伝染病の発生情報

病名	型	発生地(国)	畜種	発生日月
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国	採卵鶏	令和5年1月7日
			肉用アヒル	令和5年1月11日
	H5N5	台湾	肉用鶏	令和5年1月12日
			肉用ガチョウ	令和4年12月～令和5年1月
H5N1 H5N2	台湾	家きん	令和4年12月～令和5年1月	
		豚(3件)	令和5年1月6日～令和5年1月22日	
アフリカ豚熱		韓国	野生いのしし(57件)	令和4年12月～令和5年1月

令和5年(2023年)2月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

